



「ご存知ですか？視能訓練士」



みなさん、視能訓練士という職業をお聞きになったことはありますか？視能訓練士とは、眼科で様々な検査を行う目のスペシャリストです。日本では、1971年に国家資格として誕生しました。当初は、小児の弱視や斜視の検査や視能訓練が主体でしたが、眼科診療の高度化、専門化が進み、現在では目に関わる様々な検査や弱視訓練を行うことを主な業務としています。

人間は、外からの情報の約80%を目から得ていると言われています（諸説あります）。人間の目は、それほど大切な器官であり、なおかつ繊細で複雑なしくみをしているため、眼科には多くの検査があります。

視力検査は、みなさん一度はされたことがあるでしょう。その他にも、遠視、近視、乱視の量を測定する屈折検査、眼鏡処方検査、コンタクトレンズ検査、斜視検査、立体視検査、視野検査、網膜や角膜などの組織の断面を撮影する画像診断検査、色覚検査など様々な検査があります。

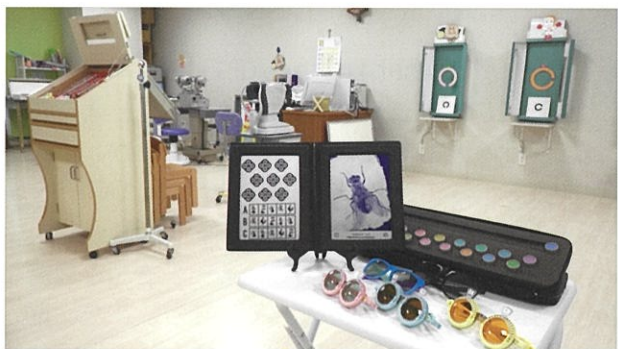
加えて、当院の特徴的な検査として、主に2歳未満の乳幼児を対象とした視力検査があります。白黒の縞模様図形と無地の図形を目の前に見せた時に、縞模様の方に視線を向けたり見えていると判断します。縞の太さを細くしていき、どこまで反応が得られるかを確認します。目の動きだけで判断しますので、まだ応答のできない乳幼児でも検査をすることができますが、やはり正確性の点では劣るため、視力に左右差がないかなど、ある程度の見え方を把握するために行っています。

視能訓練士は、これらの検査を行い、医師の診断や治療に必要な確かなデータを提供し、眼科医療をサポートしています。当院では、現在4～5名の視能訓練士が勤務しております。

年齢や発達に合わせた検査方法を選択し、興味を引き出すような声かけや、おもちゃやキャラクターを使って、楽しく検査ができるように工夫しています。また、視覚の発達する年齢は限られているため、お答えを引き出すのが難しい低年齢の小児の検査もできる限り実施し、早期に診断、治療を行えるよう取り組んでいます。

最近のトピックスとしては、2018年から遮光眼鏡の処方を開始しました。主に高度の視覚障害のあるお子様が対象ですが、『まぶしくて外出できない。』『本やノートがまぶしくて、読み書きがしにくい。』など、まぶしさが原因で、日常生活に支障がある方に遮光眼鏡をおすすめしています。

遮光眼鏡は、普通のサングラスとは異なり、まぶしさの原因となる光だけをカットするので、暗くなりすぎず、まぶしさを和らげてくれます。色の種類や濃さが異なる26種類のトライアルレンズが外来にありますので、まぶしさでお困りの方は、ぜひ一度ご相談ください。



Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- **基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年も本誌「げんきカエル」をご愛顧のほどお願い申し上げます。さて皆様のお正月の定番といえば？時代がかわっても、年を重ねても、お正月といえばこれ！というものがありますよね。今年はそんなルーティンを大切にしながらも、新たなことにも果敢に挑戦する1年にしたいです。

ご希望やお気づきの点がありましたら広報委員会までお寄せください。

- 委員長：大津雅秀
副委員長：松本奈美
委員：深江登志子 西森玲治
貝藤裕史 染谷真紀
河本和泉 笠木憲一
井口秀子 橋本恵美
時 克志 磯元啓吾
森 泰隆 辛 浩一

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



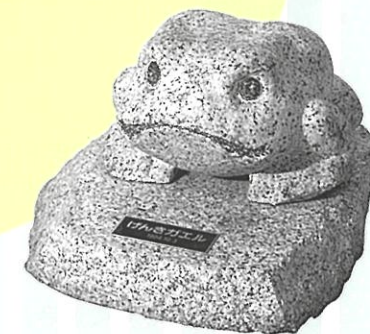
兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

01病P2-019A4

げんき No.68 カエル

兵庫県立こども病院
ニュースレター



令和2年(2020) 1月1日

アレルギー科のご紹介

2019年4月1日付でアレルギー科科長を拝命いたしました田中裕也です。2007年から2012年まで当院小児科専攻医・アレルギー科フェローとして当院で勤務した後、また今年度から戻ってまいりました。さらに本年度から百々菜月先生がフェローとして赴任され、小児アレルギーエドゥケーター3名とともに、三好麻里先生から始まり笠井和子先生が築かれた礎をしっかりと引き継ぐべく、ますますパワーアップして日々精進しております。

少子化が叫ばれている昨今にあって、アレルギーに悩むこどもはむしろ増加傾向です。アレルギーには食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、薬剤アレルギーなど多岐にわたります。一人の患者さんが複数のアレルギー疾患をもつことが多く、トータルマネジメントが非常に重要となってきます。我々は出来るだけ患者さん、保護者の方に寄り添い、一番良い方向にいくことが出来るよう手助けをしていきたいと思っています。

平成26年にアレルギー基本法が制定され、アレルギー診療の均てん化を目的として各都道府県にアレルギー拠点病院が指定されました。当院も兵庫県の4つの拠点病院の一つとしてアレルギー相談事業や、小児アレルギーエドゥケーターやアレルギー専門医の育成など医療者へのアレルギー教育などの活動に取り組んでおります。特にアレルギーは専門家だけではなく一般臨床家が絶対に診る必要のある分野であり、当院専攻医への教育を重視し今後も継続してまいります。

アレルギーの管理はとても進歩しています。これまでは薬物療法などでただ症状を「抑える」のみであったのに対して、わざとアレルギーを投与して免

疫寛容を誘導する「治す」ということにフォーカスしたアレルギー免疫療法が特に舌下免疫療法として注目されています。また重症の気管支喘息やアトピー性皮膚炎に有効な生物学的製剤も出てきています。我々もこれらアレルギー免疫療法や生物学的製剤も積極的に使用し効果を実感しています。

当院は様々な背景のある患者さんがおられ、アレルギー疾患を合併されている患者さんも少なからずおられます。そのような患者さんに対して、各科専門家と連携し患者さんの利益につながるよう診療しております。また、兵庫県下の医療機関からアレルギーに悩む患者さんの紹介も増加してきており、ありがたいという思いとともにより一層身が引き締まる思いです。

今後も兵庫県の小児アレルギー診療の中核としての機能を果たすべくより良い医療を提供していくべく努めてまいります。兵庫県下の皆様、医療機関の先生方のお役に立てるように最善を尽くしてまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。





患者手記「これからも、前を向いて😊」 島田 奈穂子(母)

娘の琴子は、2009年8月に別の病院で生まれました。現在は、神戸市の特別支援学校に通う小学4年生です。からだが小さいかな？ということ以外は順調でしたが、逆子だったので帝王切開での出産でした。生まれてすぐ泣き声が聞こえず、すぐに挿管されてNICUに運ばれました。翌日、会いに行きましたが、呼吸器と点滴につながれており、その姿をみたときはとても辛かったです。その後もなかなか呼吸器や点滴ははずれず、生まれつき肺が悪いのではということでしたが、治療を行っても改善することなく、毎日不安で仕方ありませんでした。生後25日目に、他の原因がないか検査したところ、やっと先天性心疾患である総肺静脈還流異常症がみつき、手術が必要なためこども病院に転院しました。

術後の経過も順調で、これでよくなると思っていたのですが、退院前のエコーで術後の狭窄がみつかり、再手術。退院する生後9ヶ月までの間に、計3回の手術を行いました。小さな体で、長時間の手術。本当によく頑張ったと思います。右側の肺静脈狭窄が残ってしまい、いつまた狭窄が進むかという不安はありましたが、退院が決まったときは、やっと家で親子で過ごせるといううれしい気持ちのほうが強かったです。

退院して、2ヶ月後には肺炎で1ヶ月入院。そのまた2ヶ月後には、心配していた再狭窄で緊急のバルーン拡張術が行われました。このとき、治療はうまくいったのですが、ショック状態になってしまい、寝たきりの状態になってしまいました。入院前は、発達は遅かったですが寝返りをしようとしたり、いろんな物にも興味を示すようになっていたので、変わってしまった娘の姿をみるのはとても辛かったです。しかし、落ち込んでばかりもいられません。毎日、抱っこしたり手足を動かしたり、歌を聴かせたりと刺激をあたえていたことが思い出されます。今振り返れば、この退院したときから、リハビリを受けるようにすればよかったのですが、その頃の私は、そこまで考える余裕がなく、やっと3歳になったときに、お友だちと過ごすことも大事ではないかと思い、療育センターの通園施設に通い始めました。琴子も今までにない刺激がいっぱいで、環境に慣れるのに少し時間はかかりましたが、保育

士さんやお友だちと過ごす時間は、とても貴重なものとなり、今の成長につながっています。私自身も、病気は違っても子育てを頑張っているたくさんのお母さん方と知り合うことができ、とても心強かったです。

小学校(特別支援学校)はスクールバスで通うので、今までずっと一緒にいた琴子と離れるなんてと私が心配でたまりませんでした。しかし、そんな親の心配をよそに学校の先生とお友だちと、楽しい学校生活を送っています。

そんななか、去年の元旦には帰省先でインフルエンザにかかり、重症な肺炎になってしまいました。岡山だったので、大学病院で治療を受け、その後こども病院に転院しました。こども病院に戻ってきたとき、お世話になっている先生方に会えたときは、ホッとしました。琴子もそのときは、まだ呼吸器が必要な状態だったのですが、こども病院に来たよと声をかけたら、ニコリしたことを覚えています。本当によく頑張って乗り越えてくれました。

今でも、右の肺静脈狭窄のバルーン拡張による治療や、体調をくずしたらいつでるかかわからない不整脈等、心配なことは多々あります。でもこの10年間を振り返ると、本当にたくさんのかを乗り越えてきてくれました。生まれたときは、10歳を迎えることのできた琴子の姿など、想像すらできません。今があるのは、手術をしてくださり、その後の経過や成長をずっと診てくださっている先生方やいつも温かく見守ってくださる看護師さんたちのおかげです。いつも、本当にありがとうございます。

これからも、私たち親子を支えてくださっているたくさんの方々に感謝の気持ちを忘れずに、一緒に前を向いて頑張っていきたいと思っています。



こども病院リハビリテーション(以下リハビリ)科は平成28年5月の当院移転と共に開設されました。現在、理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士5名(1名は月1回の非常勤)が在籍しています。開設3周年を迎え、こども病院でリハビリを実施されたお子さんも平成28年度10,052人、平成29年度13,719人、平成30年度16,124人と増加しています。また、本年度より「リハビリ科」は「リハビリ部」となり、科部長小林大介先生に加え、部長に前田副院長が就任されました。今後、より充実したリハビリを皆様にお届けできるようスタッフ一同自己研鑽に取り組んでいます。

【理学療法: Physical Therapy(PT)】

“リハビリ”と聞いて思い浮かぶのは“松葉杖を使った歩行練習の場面”ではないでしょうか。私たち理学療法士は、そのイメージに最も近い職種で、さまざまな病気やけがで、基本動作(座る、立つ、歩くなど)が行いにくくなっているお子さんと機能回復を目指して練習に取り組んでいます。また、長期挿管などで自力での呼吸や排痰が十分に行えないお子さんに対しては呼吸機能の改善を目的とした呼吸理学療法を、運動発達がゆっくりなお子さんとは玩具を用いながら寝返りやおすわりなどを、保護者の方への指導を含めて練習を行っています。その他にも必要に応じて、バギーや車椅子、座位保持装置などを作製される際に他部門、他機関と連携し製作過程から関わります。

【作業療法: Occupational Therapy(OT)】

“作業療法”と聞くと“何をやるんだろう?”と思われることでしょう。

何も難しいことをするわけではありません。簡単に言うと、遊ぶ、食事をするなどの日常生活の動作が上手くなるお手伝いをするのが作業療法士の仕事です。例えば、乳児さんでは、心地よい揺れなどを通しての感覚受容や、興味ある玩具を用いて手と

目の協応を促進するなど、身近にあるものを使い、生活に取り入れやすい形で実施します。幼児さんでは、ままごとやお絵かきをしながら道具をうまく操作できるように誘導し、スプーンやお箸といった日常生活への汎化を目指します。また、必要に応じて使いやすい道具の紹介をします。長期入院を余儀なくされているお子さんとは、風船遊びや手品など、リフレッシュしながら機能の向上・維持を図れるよう工夫しながら取り組んでいます。

【言語聴覚療法: Speech-Language-Hearing Therapy(ST)】

こども病院で、“ST(エスティー)さん”と耳にしたことはないでしょうか? STとは言語聴覚士の略称です。私たちの役割はことばや聞こえ、食べる・飲み込むことが難しい方に対してリハビリを行うことです。

当院では①耳鼻咽喉科外来での聴力検査や補聴器の調整、構音(発音)評価、②形成外科と連携して口蓋裂術後の言語管理、③病棟では入院中のお子さんの哺乳・摂食・嚥下(飲み込むこと)の評価や練習、ことばの発達や発音練習を中心に行っています。

何か気になることがありましたら、主治医に相談してみてくださいね。



お子さんとご家族が「げんき」にお家に「カエル」ことが出来る様にお手伝い致します。

